

安全な海外旅行のために

身体面の健康管理

事件の実例

安全対策

健康管理

----- 渡航前の準備 -----

<予防接種>

必要な予防接種は渡航先によって異なる。日本で一般的に接種しないものはり扱う医療機関が限られている。一度に何種類も受けられないため早めに準備を始めること。

<使い慣れた医薬品等>

海外のものは日本人には合わない場合がある。持病がある場合は医師の診断書や処方箋(英文)を準備していく。生理用品は日本のものが最高品質。

<海外旅行傷害保険>

海外の医療費は非常に高額。病気やけがに備え、保険に加入しておく方が安心。日本国内で使う健康保険とは別のもの。

----- 渡航中の注意 -----

<衛生管理> 生水や生ものは採らない。生野菜や氷にも注意。

<動物や虫> 犬だけでなく様々な動物が狂犬病その他の病気を持っているので、触らないこと。蚊も病気を媒介するので必要に応じて虫よけをつける。

犯罪認知件数の主要国比較

(国連統計2000年度)

	犯罪率 %	殺人 件/10万人	強姦 件/10万人	強盗 件/10万人	麻薬 件/10万人
日本	1.92	0.50	1.78	4.07	22.24
アメリカ	8.51	4.55	32.05	147.36	560.11
カナダ	8.04	2.74	32.88	78.08	369.86
フランス	6.40	1.78	14.36	41.26	176.11
イギリス	9.76	1.61	16.23	179.73	214.30
オーストラリア	-	1.57	81.41	121.43	-
中国	0.28	-	2.84	24.59	-

海外は危険がいっぱい! どの国も日本より危険!

身の安全を守るために常に気を配る必要がある。

犯罪に慣れていない日本人はとても無防備。用心の上にも用心を!

海外での事件実例：その1

<スリ>

ソフトクリームなどを服につけられ、恐縮して拭き取ってくれたが、後で気が付くとポケットから財布がすられていた。

【対策】 拭いてもらったり荷物を持ってもらったりしない

<置き引き>

・レストランで椅子の背中側にバッグを置いて食事をしていたら、取られた。

【対策】 バッグはかならず膝の上に

・ホテルロビーのフロントでチェックインの手続きをしている時に足元に置いたカバンを置き引きされた。

【対策】 荷物は体に接触させておく、目を離さない

外務省海外安全HP 「海外邦人事件簿」に記載されている事例を参照しておくとい

http://www.anzen.mofa.go.jp/jikenbo/jiken_index.html

海外での事件実例: その2

<偽警官による所持品抜き取り、パスポート持ち去り>

警察官に扮して所持品検査をすと言い、かばんの中を探って貴重品等を盗む

【対策】 周りの人に立ち会いを依頼する、警察署へ行くことを主張する

<偽の出迎え／偽タクシー>

空港で本物のピックアップサービスの人を持っているボードを真似て、偽物を作り、前の方で待っていたり、声をかけて連れて行き、人気のないところで乱暴し所持品を奪う

【対策】 本物かどうか会話などによってしっかり確認

<麻薬の運び屋>

知人から荷物を預かって日本の空港で待っている人に渡すように頼まれたところ、麻薬であることが分かり、逮捕。(中国で実際に日本人に死刑が執行された)

【対策】 頼まれても他人の荷物は絶対に預からない

法律や習慣の違いから発生する危機

<飲酒について>

例えばアメリカではほとんどの州で

- ・21歳未満の飲酒は違法
- ・開けた酒類の持ち歩きも違法
- ・屋外で飲むのも違法
- ・車に開栓した酒類があったら飲んでいなくても違法

自分が行く国や州の法律を確認すること

- ・カクテルなどは日本で飲み慣れているものよりも強い可能性大。控えめに！
- ・飲み物に薬物を入れられる事件が多発している。

自分が注文したもの以外は飲まないこと。

一人で飲みに行かない

飲み過ぎない

<デートと交友関係>

遠まわしに雰囲気伝えるというのは海外では通用しないので、トラブルの元。

NO は NO！と言葉で最初からはっきり言う。

よく知らない人に安易に気を許したり、2人きりになったりしない。

海外での性犯罪

<ターゲットにされやすい日本人女性>

アジア系(特に日本人)女性はおとなしく、被害にあっても通報しない傾向が強いと見られているため、狙われやすいと言われている。夜間の一人歩きは絶対にしないこと。また防犯ベルやホイッスルを見せるようにして持ち歩くのが意外に効果的と言われている。

<男性も決して他人事ではない>

男性も性犯罪の被害者になる。男性33人に1人がレイプ(完遂／未遂)被害の経験があるという統計もある(アメリカ、2000年度)。

<デートレイプ>

大学で多発している。デートやパーティーの後で性的暴力を受ける。NOはNO!と最初にはっきり意思表示する。パーティーの後一人にならないように友達と一緒に早めに帰る。飲み物に薬物を入れられることもあるので、自分が目を離したものを口にしてはいけない。

海外での安全対策

<すきを見せない／現地の人と同化した服装>

特に個人行動をするときには、短期滞在者であるとわからせないことが第一の安全策。ガイドブックを持ってきよろきよろしたりしない。

<ブランド品を持ち歩かない／露出の多い服はさける>

犯罪を誘発するような状況を作らない。

<情報収集> 信頼できる情報源から、常に最新の情報を入手する。

<車の運転はしない！>

自分が運転して万一事故が起きた場合、旅行傷害保険は支払対象外。
国際免許をもっているいても莫大な損害賠償を請求される可能性もあり、訴訟ともなれば大変な費用と労力がかかる。

<自宅との連絡>

留学先国で自然災害・大事故などが発生したら、離れた地域であっても速やかに家族と連絡をとり、安全を報告すること。

健康・安全に気をつけて
HAVE A NICE TRIP!

